



フローリアン・ズースマイヤー展

会期：2014年1月11日（土）～3月8日（土）

開廊：火曜～土曜・12:00～19:00

休廊：日曜日・月曜日・祝祭日

会場：ミヤケファインアート

〒135-0024 東京都江東区清澄 1-3-2-5F

オープニング・レセプション：11日（土）17:00より

Florian Süssmayr

Saturday 11 January to Saturday 8 March, 2014

Venue : Miyake Fine Art / 1-3-2-5F Kiyosumi, Koto-ku, Tokyo

Open : Tuesday to Saturday, Noon to 7pm

Closed on : Sunday, Monday and Holidays

Opening Reception starts at 5pm on January 11th.

お問い合わせ：for inquiry Call: 03-5646-2355

or mail to : info@miyakefineart.com

自然に Süssmayr の芸術は他のブリッジをも構築する。画家によるイメージと写真家によるイメージとの間のブリッジ。絵画作家と写真作家との間のブリッジ。さらに、Süssmayrの場合、写真は単に彼の絵画の題材やモデルではない。例えば、彼が「捕らえる」カメラがフラッシュを光らせた瞬間、非常に多くの場合、それらの絵画でのように、主題であるのは写真をとる実際の瞬間である。あたかも彼は写真がかつて所有したもの、ロラン・バルトが呼んだ「punctum」、目に見えないが重大な瞬間、を生き返らせようとしているかのように。

クリス・ダーコン (Director: Tate Modern, London)

ミヤケファインアートでは、ミュンヘン在住のドイツ人ペインター、フローリアン・ズースマイヤーの本邦2度目の個展を開催いたします。フローリアン・ズースマイヤーは1963年にミュンヘンで生まれ、80年代パンクムーヴメント全盛期に地元のパンクバンドのメンバーとして活動し、90年代を通して実験映画やドキュメンタリーフィルムの制作に携わった後、成功した風景画家であった祖父の影響もあり、90年代後半から絵画の制作を始めます。彼が軽妙なタッチで描くペインティングは全て写真がモチーフとなっており、その写真は彼自身の撮影によるものだけでなく、新聞や雑誌、或いはレコードジャケットの写真などが題材になっています。2005年には地元ミュンヘンの現代美術館、House der Kunst「芸術の家」で地元作家としては初めての個展を開催する事に成功しました。現在では、ドイツ国内のみならず、ニューヨーク、ロサンゼルスでも継続的に作品を発表しております。

展覧会は、ドラクロアの古典絵画に登場する躍動する人物群像を手本として、再構成されたサッカースタジアムの熱狂する群衆の姿が描かれた大作を中心に、それとは対称的に静的な風景画や人物画の小品で構成されています。少しも熱を感じない躍動する人々、点滅するナイトクラブのネオン、自殺を連想させるアパートの窓、無表情で佇む人々。時代錯誤、或いは時代に逆行するかのような方法論を志向しつつも、いずれも不思議な現代性を湛えたズースマイヤーのペインティングを堪能できる展覧会となっております。

是非、この機会にご高覧下さいますようお願い致します。

